

町方伊報

発行所
伊方町
愛媛県西宇和郡伊方町湊浦
〒796-03 伊方局38-0211
編集
総務課
印刷所
豊豫社
八幡浜市松柏 22-0144

町方春



明けましておめでとうございます。町内の皆様をはじめ、遠く町外でご活躍の皆様もご一家団らん、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、町政に対し格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

特に昨年は、激動の昭和が終り、



町長 福田直吉

豊かで住みよい町づくり

平成の新しい幕明けの年であり、税制改革による消費税の導入など、新時代に向けての節目の年でもありました。

町におきましては、皆様がたのご協力のもと、念願の町民グラウンド用地の確保、地域振興センターの用地造成に着手することが出来ました。

また、町づくりの基礎となる道路網や生活環境、農漁業の基盤整備

準備などの諸事業も順調に進んでおります。

私は今年も「活力ある町づくり」「定住できる町づくり」「希望あふれる町づくり」の三つの基本政策を柱に、豊かで住みよい、福祉の行き届いた町づくりに努めてまいります。

一つには、農産物の貿易自由化をあと一年に控え、国の減反政策

との整合を見ながら、足腰の強い農業基盤を作るため、南予用水供給施設整備の継続実施を、皆様のご意向に沿って有効に行っていくきたいと思います。

二十一世紀は情報化、技術革新の時代です。この新時代に対応出来る町づくりの一環として、ソフトソーシング計画、ニューメディア・アコモニュニティ計画がござります。

今年二月には、情報、コミュニケーション

作りの核となる、地域振興センターが着工、年内に完成する運びとなっております。

このセンターは、現在実施しております、パソコン講座、情報処理技術者養成講座等のニューメディア普及機能はもとより、八西地区広域CATVセンター、バイオ技術の研究等にも取り組める施設を目指しております。

将来に備え、コンピュータに強い若者を育てると共に、パソコンや新技術を、農漁業の振興に結び付けていくなど、町における地域間交流の基地として活用してまいりたいと思っております。

しかし、町の財政事情は引き続き厳しい状況にあります。こうした、厳しい財政状況をふまえて将来を見通した適切な財政運営に努めながら、二十一世紀にかけ「ふるさと伊方町」の発展のため、豊かで住みよい町づくりの実現に向け、努力したいと思います。

この希望あふれる新春にあたり、皆様がたのご健康とご多幸を祈念申し上げますとともに、より一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

明けましておめでとうございます。

町民の皆様にはご家族おそろいで新春を迎えられたことと拝察申し上げます。新しい年が皆様にとって素晴らしい年でありますよう心

なつたのでありまして、新時代に寄せる期待も又、大なるものがあります。国民生活においては、消費税導入という新たな事態にも入ることとなりました。

こうしたことの方、本町の基

いると思っております。

本年は又、引き続き南予用水受け入れに伴う畑地灌漑事業の推進やその他ふるさと創生事業等も含めた懸案の諸事業がござります。

中でも八西地域の広域有線テレビのことににつきましては、いよいよその放送基地となる建物の工事が二月頃から始まるようしております。

私達議会も一致結束、議決機関としての使命と責任を自覚し、町政の伸展と町民経済福祉の向上に最善を尽し町民の皆様のご負託にこたえてまいり所存でございます。

どうか今後とも議会活動に深いご理解と関心をお寄せいただき、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



議長 菊池 伝治

議会活動に理解と関心を

から祈念いたします。

旧年中は議会に對しまして格別のご協力とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

顧みずと昨年は、激動の昭和が終りを遂げ新しく平成の時代と

幹産業であります柑橘をめぐる情勢は、あと一年後に迫ったオレンジの輸入自由化及び二年後であるオレンジ果汁の自由化を控え、減反調整の中で生き残れる産地としての努力が、お互いに求められて

あけましておめでとうございます。

あけましておめでとうございます

おめでとうございます

〔役場〕

- 町長 福田直吉
- 助役 山口和哉
- 収入役 西田恵明
- 総務課長 榊田信夫
- 財務課長 阿部喜光
- 住民課長 市尾隆志
- 保健センター所長 兵頭 定
- 福祉環境課長 大森次郎
- 産業建設課長 松田勝彦
- 政策局長 榊田佳明
- 副収入役 菊池和彦
- 水道課長 岡元幸雄
- 農業委員会事務局長 鎌土勝利
- 職員一同

〔区長〕

- 大浜 米田國男
- 中之浜 舛田和幸
- 仁田之浜 二宮長幸
- 河内 藤堂宏志
- 湊浦一 後藤久真雄
- 湊浦二 村田和助
- 小中浦 吉本高治
- 伊方越 門田 元
- 亀浦 中田時春
- 中浦 矢野雄三朗
- 川永田一 篠川長義
- 川永田二 菅野昭男
- 豊之浦 高石 定
- 奥 城岡幸夫
- 向 浪下時雄
- 畑 三根生國泰
- 須賀 門田幾光
- 久保 脇田春雪
- 西 高口孝志
- 二見 平尾龍馬
- 加周 小林栄喜
- 田之浦 樫尾博一
- 古屋敷 小島 勲
- 大 成 古田俊介
- 鳥津 道元伊勢夫

謹賀新年

〔町議会議員〕

(議席順)

- 高野 遠
- 辻 忠義
- 梶田 忠義
- 福田 弘
- 重岡 雅樹
- 竹内 藤雄
- 小泉 久
- 菊池 伝治
- 竹場 淳
- 浜本 浩
- 吉川 治吉
- 丸山 栄一
- 高月初彦
- 田中 康司
- 宇都宮 永
- 上野 守
- 佐竹 英信
- 渡辺 信昭
- 議会議務局長 田中 登

町の奨学資金制度

教員志望の方に 返還免除の特例

伊方町教育委員会では、平成二年度の「町奨学生」を募集しています。奨学金の貸付を希望されますかたは一月三十一日までに、次の要領で申し込んでください。

なお、小中学校の教員志望のかたは免除等の特典があります。

【資格】

○学校教育法に規定する高等学校(盲学校・ろう学校・養護学校の高等部を含む)、高等専門学校、大学及び県立農業大学校に四月に入學(新一年生)する人。

○人物、学業ともにすぐれ、健康で学資金の負担が困難と認められる人。

○保護者またはこれに準ずる家族(成人に限る)が町内に居住している人。

【貸付方法】

高等学校……一万円
高等専門学校……一萬五千元
大学……二万円
県立農業大学校……一万円

【返還方法】

貸付金は無利子。返還は、貸付が終了して六ヵ月経過した後、貸付期間に応じて十五年以内に返還してください。

【手続き方法】

町教育委員会が定める「町奨学生願書」に必要な事項を記入して、直前に卒業した、または在学している学校長の推薦調査を添えて提出してください。

【返還免除の特例】

愛媛県公立学校教員(小・中学校教員)として採用され、県内の学校に八年以上勤務したときは、奨学金の返還が免除されます。

お礼

八幡浜市川上町川名津にお住いの中岡チツ子さん(小中浦出身)から二万円。

広報編集費用にご寄付いただきました。紙上から厚くお礼申し上げます。



人権作品で145人表彰 法務局長賞に梶田さんら4人

町人権擁護推進協議会が募集した、人権作品の表彰式が十二月九日、町民会館で行われました。

この人権作品は、十二月四日から十日までの人権週間にあわせ、町内の小中学生から

募集していたもので、作文や標語などに四百八十八点の応募があり、百四十五点が入賞しました。上位入賞された皆さんは次のとおりです。

八幡浜人権擁護委員協議会長賞

作文 渡辺美保子(町見中)
阿部佳代(伊方中)
阿部 純(伊方中)
藤岡みわ(町見中)
門田智代(有寿来小)
井上咲子(九町小)
川田景子(二見小)
朝井豊記(伊方小)

町長賞

作文 川田好高(町見中)
標語 岡市桂治(伊方小)
書道 朝井洋品(伊方小)
書道(硬筆) 明神勇作(水ヶ浦小)
ポスター 大澤勝英(九町小)
崎野有希(有寿来小)
成本郁恵(二見小)
宮本 香(伊方中)

県人権擁護委員 連合会長賞

作文 宮本 香(伊方中)
井上佳子(伊方中)

書道 田中浩和(水ヶ浦小)
森元奈緒(九町小)

町人権擁護推進協議会長賞

作文 高橋公子(伊方中)
標語 河野幸世(豊之浦小)
書道 井上雅文(豊之浦小)
書道(硬筆) 渡辺 暉(伊方小)
ポスター 渡辺尚浩(伊方小)
平家敬美(二見小)
門田智代(有寿来小)
佐竹慶二(伊方小)

町人権擁護委員伊方部会長賞

作文 山神睦子(伊方中)
標語 竹内弘明(豊之浦小)
書道 兵頭千和(有寿来小)
書道(硬筆) 門田俊宏(有寿来小)
ポスター 井上雅之(二見小)
川田景子(二見小)
小島香奈(二見小)
玉井加奈子(町見中)

町教育委員長賞

作文 堀内リカ(町見中)
標語 田中孝明(有寿来小)
書道 兵頭 恵(有寿来小)

厚生年金・国民年金 二月分で改定 差額を支払い

厚生年金や国民年金などの年金額が引き上げられます。今回の年金額の引き上げは、昨年四月にさかのぼって実施されることになり、二月の定期支払で新年金額とあわせて改定差額が支払われます。

厚生年金、国民年金とも既にそれぞれ平成元年十一月、十二月に前月までの月分の年金額が支払われていたため、二月の支払いでは、前回の支払い以降の月分の新年金の額と、昨年四月から既に支払済みの月分までの差額とがあわせて支払われることとなります。

人の動き

平成元年12月1日現在
世帯数2,631戸(-3戸)

人口 8,261人 {男3,999人(+3人)
(+10人) {女4,262人(+7人)}

えんむすび

平成元年11月1日
11月30日
氏名 本籍地

お誕生おめでとう
よい子に育ってください

平成元年11月1日
11月30日
保護者 続柄 児名

おくやみ

平成元年11月1日
11月30日
死亡者 年齢 住所



こちら 編纂室

平成二年は午年です。馬は、人間と意思のかような家畜として、昔から親しまれてきました。でも最近では、馬を見かけることが少なくなり、また、八万二千頭以上は、日本で飼われている馬の一番最近の数字です。そのほとんどが乗馬用で、農耕馬、ばん馬(荷を引かせる馬)など少数派です。人類が馬を家畜として飼いはじめたのは、紀元前四千年ごろと推定

されています。そして今日まで、運搬用、農耕用、乗馬用はもちろんだが、戦争や狩猟にも馬は登場します。

さて、初もうでや合格祈願に奉納する絵馬は、もとは神社や寺に馬を奉納する代わりの、馬の絵を書いたのが始まりとされています。

さて、今年には馬にあやかり、ウマく乗り切りたいものです。今年もよろしくお願いたします。

